



繋いだ手

Presented By JYUNGINBOSHI / Asahi Takashina

成人向
FOR ADULT ONLY

繋いだ手

Presented By JYUNGINBOSHI
Asahi Takashina [20100425]
7TH DRAGON FANBOOK*07

Preface

初めまして、こんにちは。たかしな浅妃です。ななどら本も7冊目になりました！
コピー本や合同本を除いてこの冊数は、私としては驚異的なので何だか感慨深いものがあります。

そして本書がメインで描いてきたギルドの一番最後のお話になります。
この話まで辿り着くのを目標にしていた節があるので、『7』冊目というナンバリングで発行出来ることを嬉しく思います。

本文は微妙に前提条件アリのお話ですので、宜しければ粗筋に目を通してやって頂ければ判りやすいかと思います。
面倒くさくてすみません。

タイトルにある通り、繋いだ手。それを握り締めるのか、振り解くのか。
最後までお付き合い頂ければ幸いです。

Spring,2010 たかしな 浅妃 拜



カザンを帝竜から奪取し、英雄となったとあるギルド。

そのギルドに所属しているグリオンは戦力不足を埋めようと、ギルドオフィスに足を向けていた。

そこで一人、寂しそうしているモモメノが目にと留まる。

ギルド管理長のエランから、彼女は貴方達以前に帝竜討伐に向かったが壊滅させられたギルドの生き残りだと聞かされる。
帰ってくるのか判らぬ仲間を待つモモメノを、グリオンは自分のギルドに所属させたい希望し、他のメンバーを説得した。
ギルドに加入させる前に、まずは警戒心を解こうと何度か接触を図るうちにモモメノがグリオンに問う。

「どうして私に構うの？」と。

前ギルドに組んでいたナイトが居た為、同じ職であるグリオンに会う度に仲間のことを思い出し、モモメノは辛いという。
そんな彼女に笑っていて欲しいから。と返すグリオン。

その言葉に泣き出したモモメノを慰める内、なし崩し的に彼女を抱いてしまう。

そんなモモメノがグリオンに出した命令は『傍にいて。一人にしないで』

画してモモメノはギルドに加入することになった。

前ギルドの仲間が帰還するまで、という条件付きで。



ええ、これで
このクエストの報告は
終了ね



—つと
これでいいか？



御免なさいね
これから英雄になるであろう
貴方達にこんなこと頼んで

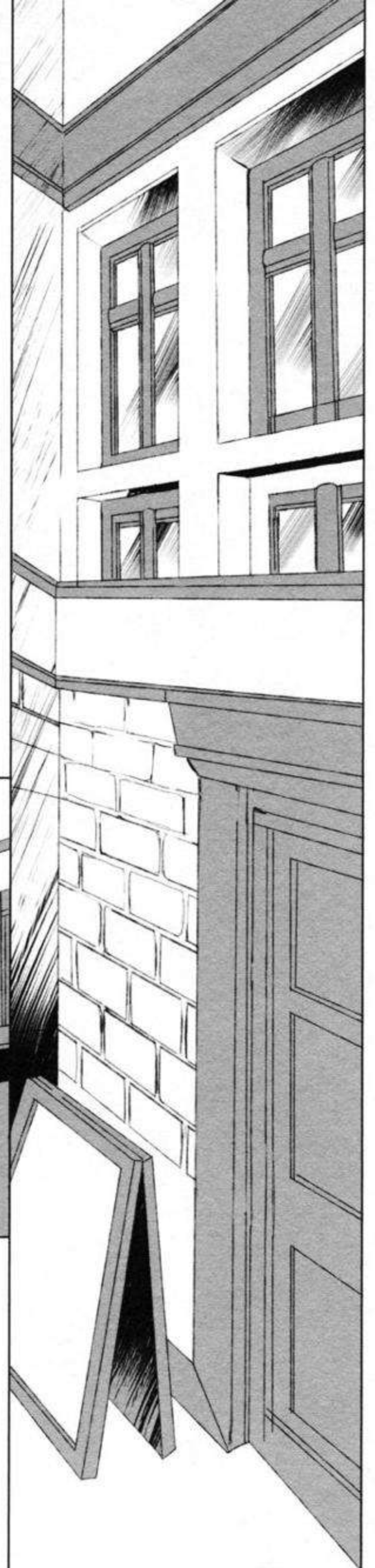
いや、構わないさ



いざって時に後悔しないように
やれることは全部
やっておきたいしな

それじゃな

あ





実は貴方たちギルドに
まだ用事があるの

悪いのだけれど
また夜に来てくれないかしら

ただ……



ああ、来てくれたのね
御免なさい
急なお願いだったのに

それは構わないが

……言われた通り
モメモノは置いて来たぞ

ありがとう

それで？
どういうことだ？
モメモノ抜きでなきや
出来ない話なのか？



そうね

私が話すよりも
彼らに聞いて貰った方が
早いと思うわ



……回りくどい言い方は
好きじゃないの

何か用事が
あるんでしょう？

単刀直入にお願い



——私が、というか
それが先方の希望だったから



初めまして、ですね

わざわざご足労頂いて
申し訳ありません



あんたらだな？
モモメノの
元ギルドのメンバーは

無事なようで何よりだ

ええお陰様で

ロラツカ森林で
倒れていたところを
ブレロマの調査チームに
助けられましたね

尤も



なるほどな

そういうことか

あの赤い花のお陰で
一年間昏睡状態でしたが

……このタイミングで
戻ってきた訳は判った

それで？
ただのご挨拶って
訳じゃないんだろ？

話が早くて
助かります

アレス

……

モメノ様を我々のギルドに
戻しては頂けないだろうか

勝手なことを言っているのは
重々承知の上だ

ただ君達はこれから
あの人類の宿敵と
合間見えることになる

彼女の騎士として
そんな危険に晒すのを
許すわけにはいかない

ちよっと！

——モメ抜きで
そんな大事な話を
しようって言うの？



特に君には感謝しているよ



勿論、今まで彼女の側に居てくれたことは有り難いと思っっている

本来であればモメモノ様ご本人のご意思を尊重すべきなんだろうな



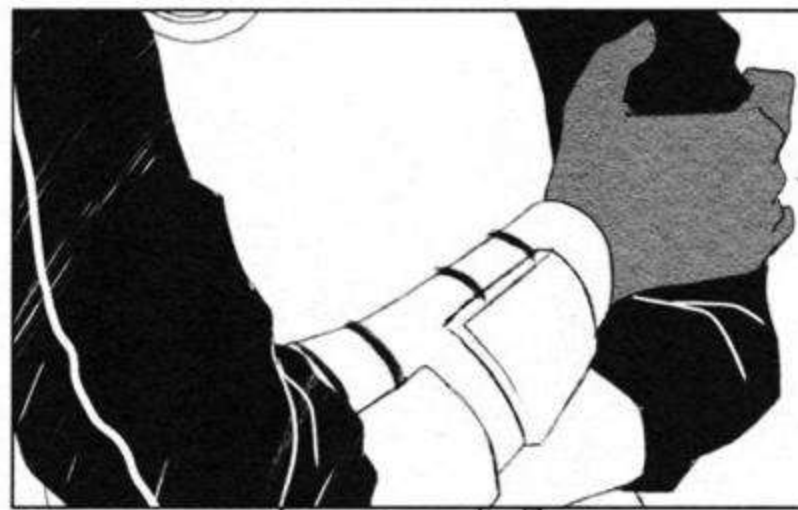
けれど

.....

あの方に君達と我々どちらか選ぶことなど出来ない



無理して選ばせることないと僕は思う.....



それは無理があるな
悪いが戦力差が
大き過ぎる

例えば：
ギルドを統合する
っていうのは駄目なの？



——こちらとしても
実力差の大きいギルド同士の
統合は賛成し兼ねるわ

色々な齟齬が生じるのは
自明でしょうし

相手がこれから
真竜を討ちに行くような
ギルドでは
なおさら、ね…



それは——



……

こうなることを承知で
あいつをギルドに
入れたのはお前だ

ならお前が責任を持って
決めるべきだろう



お前が決めるよ
グリオン



沈黙は肯定と見做すぞ

……



お前もそれで構わないな？
ロザリィー

！

——そういう訳だ
どうするのか、選べ



覚悟など
疾うの昔に
決まっている

彼女の手を取った
あの日から——



レオの言う通り、全部初めから判っていたこと



グリオン……っ！

元より姫とは
そういうお約束でした

有り難う

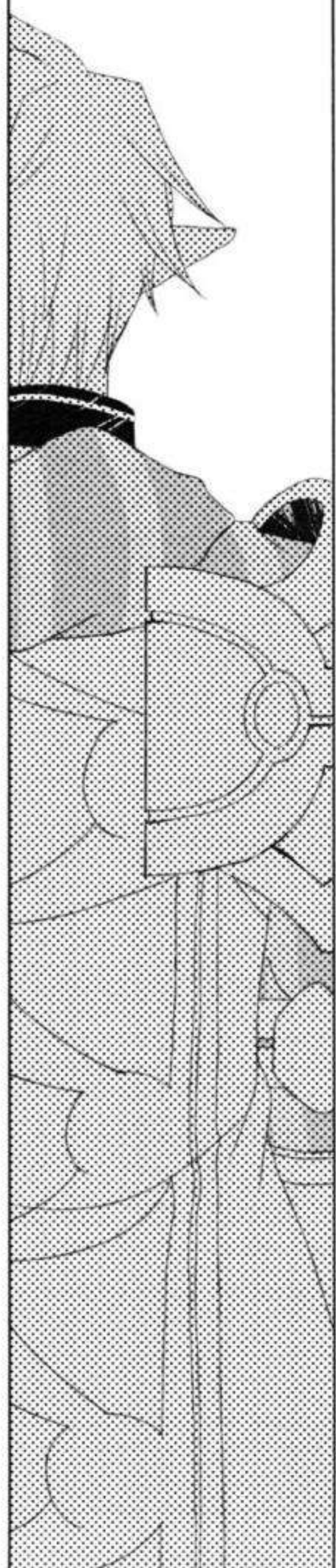
——
判りました



今日はもう遅いですから
彼女を迎えに行くのは
明日にでも



……すまないね





ラン

一つだけ
条件があります



姫

どうぞ、何なりと



我々の無理な願いを
聞き入れて貰ったんだ
君の条件も聞くのが筋だろう





でも…
そんな風に
ゆっくりしてる時間……

いいぞ
行って来い



今日は良い天気です

少し私の外出に
付き合っ頂けませんか

確かにいい天気だしな

多少なりとも骨休めした方が
士気も上がるだろ？



いってきます



…いこう？
グリオン



レオが…そう、いうなら…



……グリオン？

こんなに辛くなるなんて思わなかった

うん……

この手を離すのが



それでも

こころすくことで
きつと泣かせてしまっ

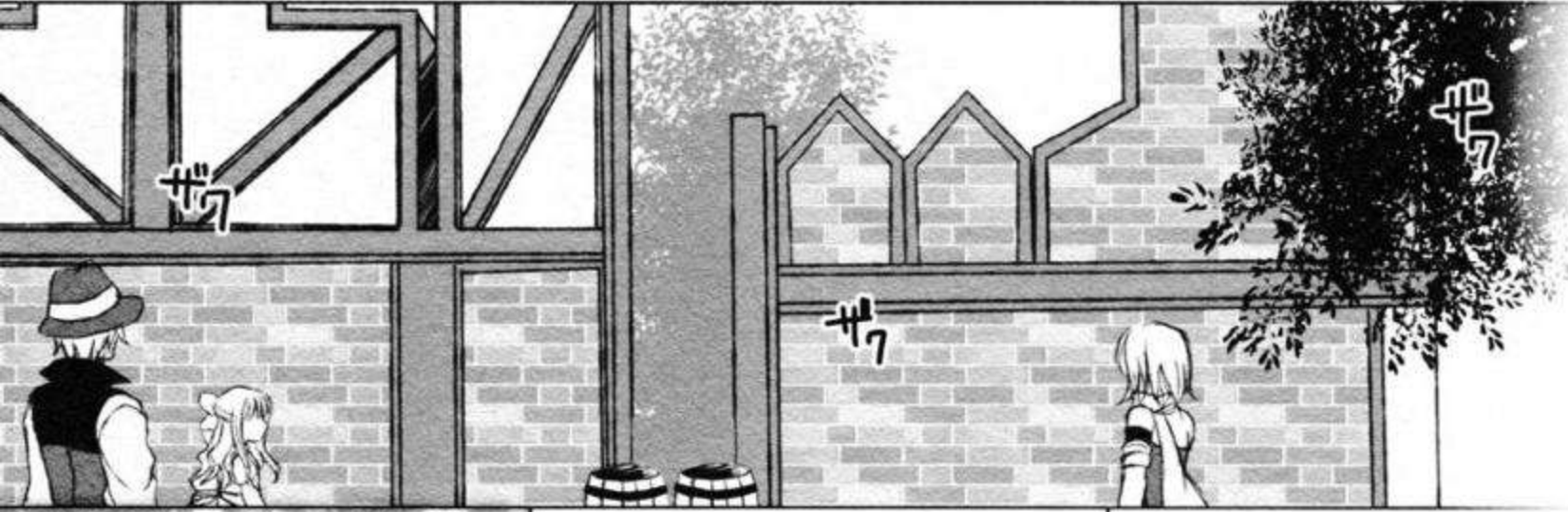


幸せで、いてくれるなら

それでは

無事で

バタン



—着きました
しばらくここで
お待ち頂けますか？

…？

秘密です
けれど、きっと姫にとって
良い場所ですよ

グリオン…
どこ、いくの…？



キム





降ってきたな

本降りになる前にカザンに
戻りたかったんだけど…

撤退中に降られるとは
ついてねえな

…モメノが抜けたことで
撤退を強いられる程
戦力に影響が出るとはなあ

もう…二週間ね

モモは
どうしてるのかしら



これで



グリオン…本当にあれで良かったの？

モモに無事で居て欲しい気持ちも判るわ

けどっ

それを言葉にしなくても相手は判ってくれるなんて思い込み

そんなの欺瞞だわ



…グリオン？

え？

…め



何故こんなところに…っ

ほしやっ

姫!?



っ!!

なんで——っ

なんで置いて行ったの

私…そんなの
了承して…ないっ

アレス達が戻って来たって…
これじゃ…おんなじ

ナツキキキキ…

ナツキ…





もう



いや...なの

アハハ



もう...誰かを待ち続けるのは
いや、なのになーっ

アハハ

アハハ



取り敢えず
中にお入り下さい

ここに居ては濡れます



アハハ





.....

俺達は宿屋の方に行くから

こうなった以上
ちゃんと話してやれ



はっ

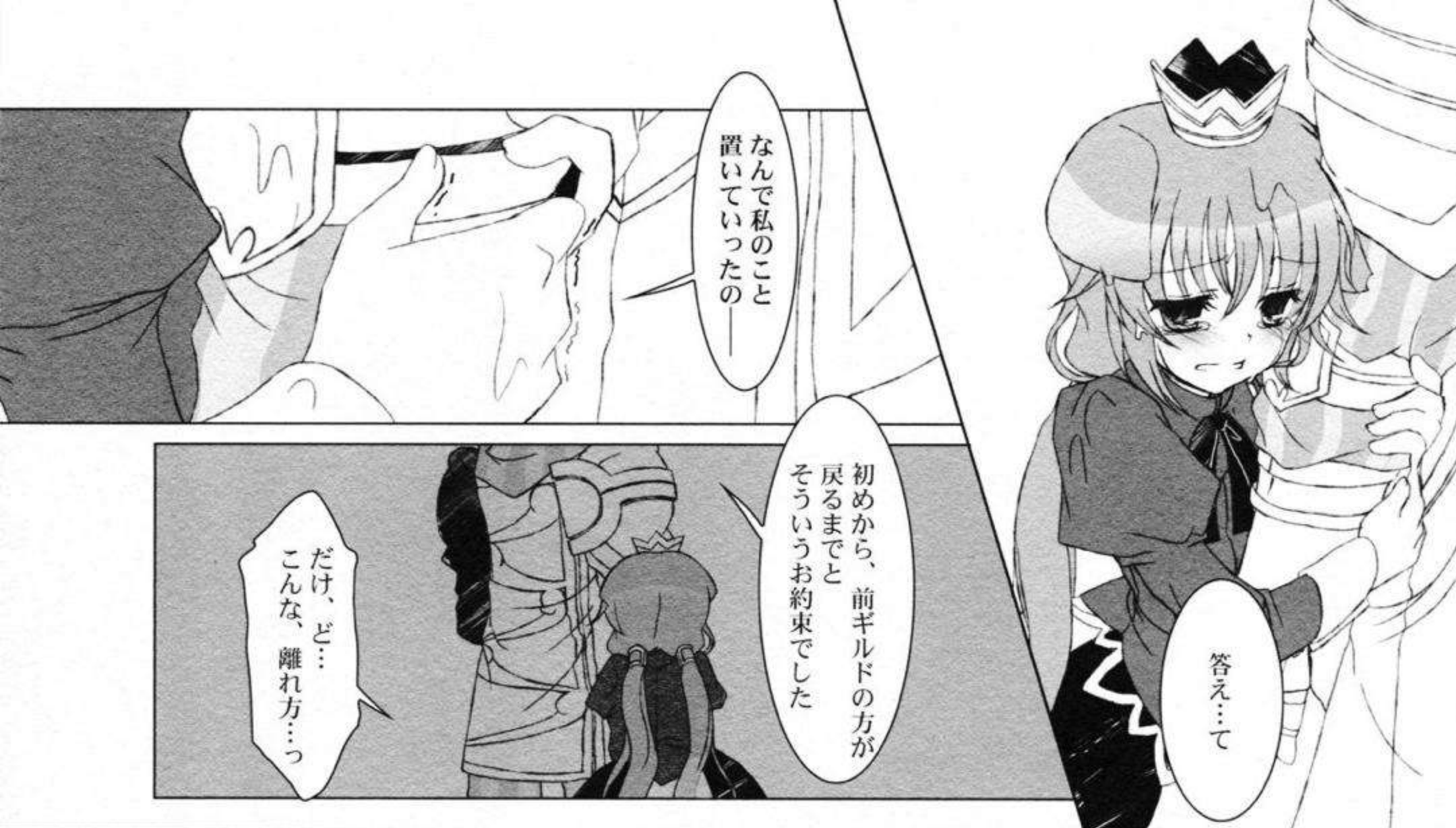
私はその間、外に――



――取り敢えず、
風邪をひかれる前
にお着替え下さい



だめっ!!



なんで私のこと置いていったの

答え……て



初めから、前ギルドの方が戻るまでとそういうお約束でした

だけ、ど……こんな、離れ方……っ



本当は私のナイトなんて嫌だった……？

だか……ら？



え……？

貴女をギルドに戻して欲しいと仰ったアレス殿にお約束頂いた条件です



『一つだけ条件があります』

『生きて戻ることが出来たらのなら再び、姫のナイトに』



『一つだけ』

許されるのであれば、
初めから
貴女の元に戻るつもりでした

私の主は
貴女だけです
姫

これまでも
——
これから

それなら……

そう、言……て……くれれば……

私は

守れないかもしれない約束を
貴女にすることは出来ません

そん……な

そんな言い方
しない、で……

お判り頂けたなら
アレス殿のところ
にお戻り下さい

わかんない……

やだ……!

知らないところで
いなくなっちゃう
なんて……そんなの、嫌なの

姫……

だって!!

だって……



だから…っ



駄目って、言っても…っ

姫



その言葉を貴女の口から聞ける日は
来ないと思っていました



私…グリオンが…
グリオンが、すき…だから…っ



—それで、
宜しいですね

うん…やっぱり
付いていきたいの



何度でも言うから

だから置いていかないで



私…まだ、きいてない

グリオンが…私のこと
どう思ってるのか
きいて、ない…



判りました
ですが今日は
もう遅いです

今日は着替えて
お休みに—

……私

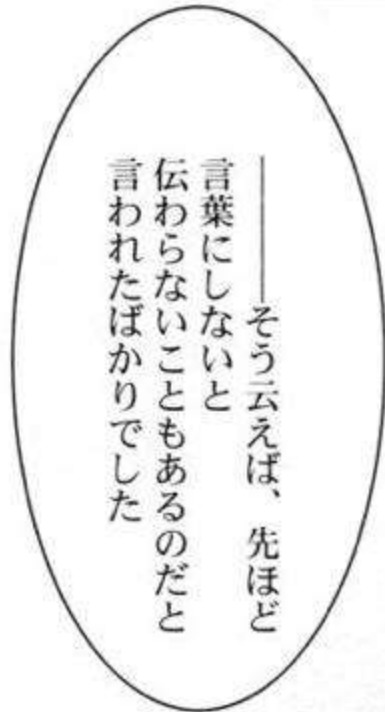


アレスには…私のはなすから…



—愛しています、姫

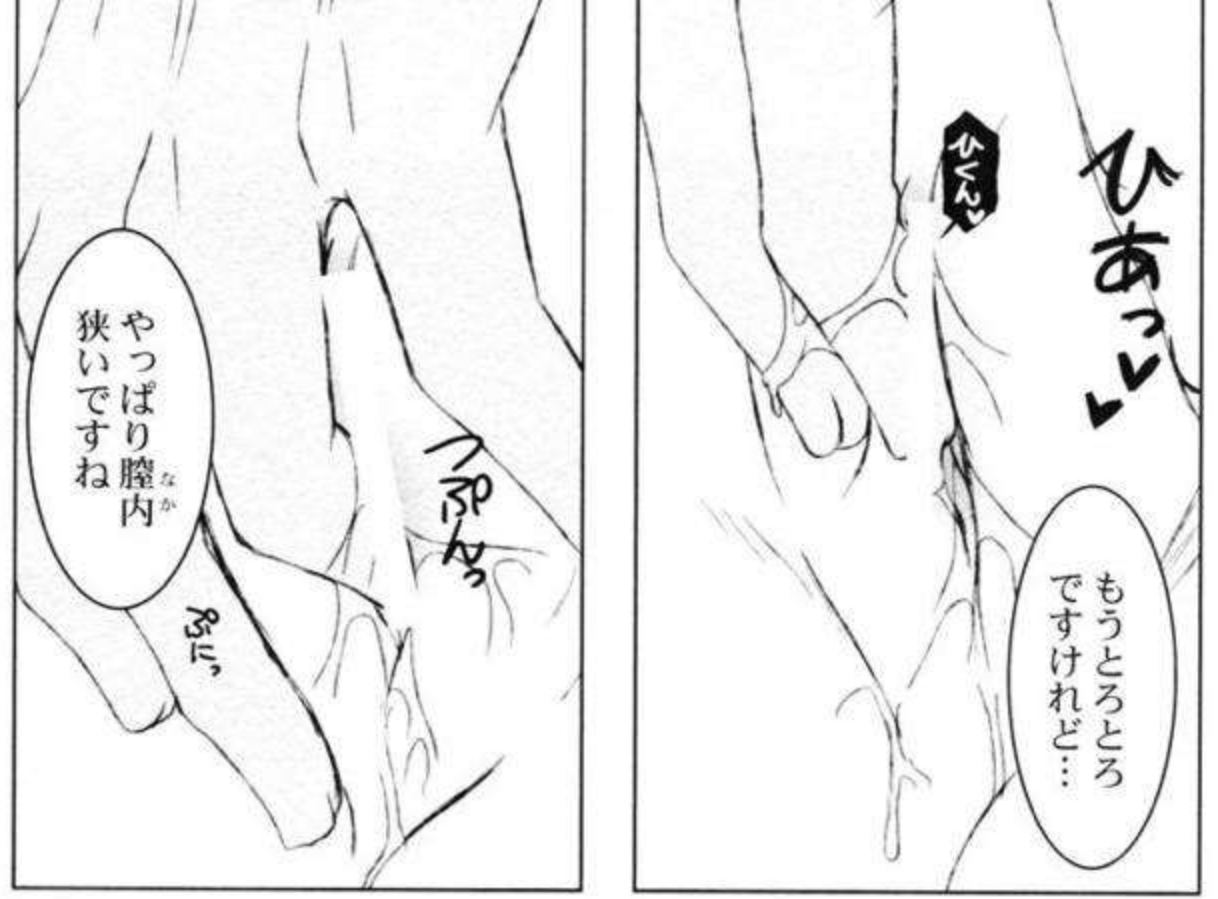
……うん



—そう云えば、先ほど
言葉にしないと
伝わらないこともあるのだと
言われたばかりでした



それは…





すごく…かたく、なってる

カキッ

…んっ

姫っ

カキッ

カキッ



変な…きぶん

こう、していると…私に
ついてる…みたい、で

こんなことされて
我慢出来るはずありませんっ

先っぽから…でてきて、る

…するの、きまっ…

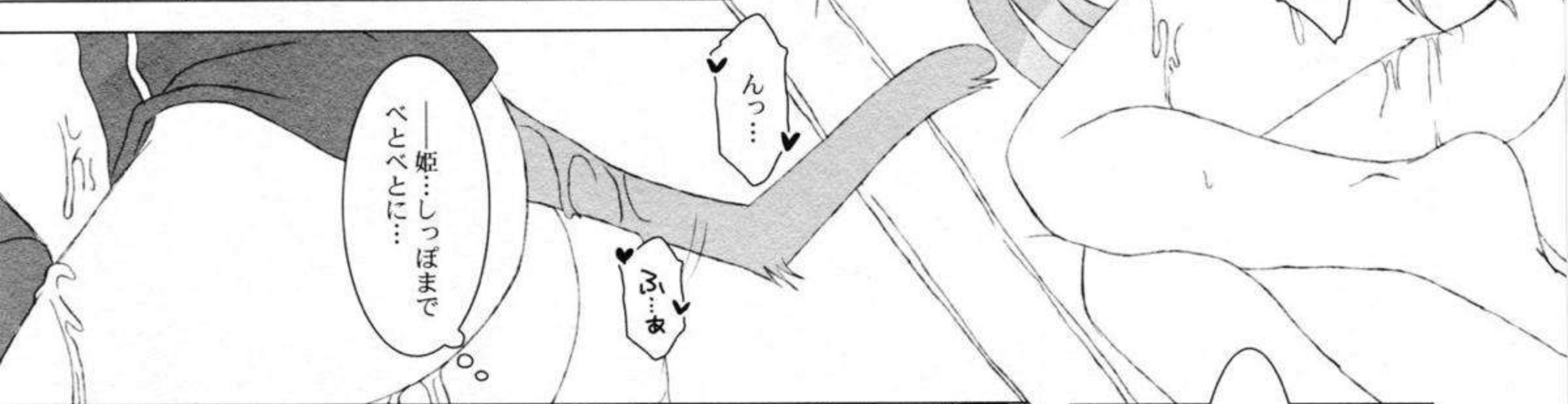
…っ





——っ申し訳ありません…
身体にかけて…っ

拭きますので…
少し我慢して下さい



——姫…しっほまで
スゴスゴで…



しっほ濡れているのも
綺麗になさらないと



なめちゃ…っ

ふいやあ…っ

だめえ

へんに、なっちゃ…う

あ…っ
あ…っ

はっ

はっ



しっほ…じゃ、なくて
べつのこと…が
いら…の…



もの…たりない、よお…っ

しっほ…グリオンに
さわられるの…すきっ
だけど…

す、き…っ



姫…しっほいじめられるの
気持ちいいですか？
ひくひくして
物欲しげですよ



—でしたら…



!



あの…ね、私のお…んこ
グリオンに
きもちよくして…ほしいの

おね、がい…



…わかつ、た



—でも…っ

姫の可愛い
おねだりが聞きたいです
いけませんか—？

—言わなきゃ…
だ、め…？





ごめ…な、さい…

あ…姫
辛かったですか？

ちが…っ

Σv…



ごめ…ん、なさい
よこし、ちやつ…た
グリオンに…

わた…しっ

そんなこと—

でも…っはしたないとこ
ばっかり、みられ…て
嫌われちゃ…う

大丈夫です



あ…

姫が乱れてらっしやるの
可愛くて…興奮します

もうこんな風ですから



だから…もつと
見せて下さい

ゆっくり
挿入れますね

…う、ん

とと



っあ…あ

あ…あ

あ…

はっ

痛くは…なさそうですね

はいつて…るっ
おなか、いつ…ばいに
グリオンの…が

…っ
膈内が絡み付いて…っ

あ…あ

あ…あ

あ…あ

あ…あ

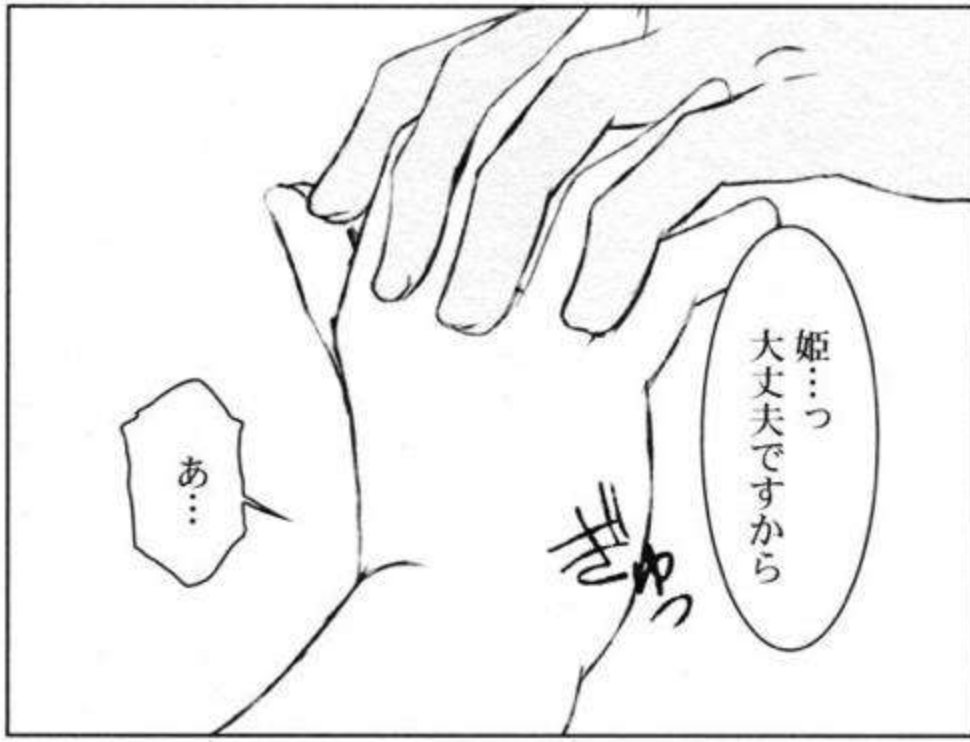
あ…あ
おん…あ
あ…あ

あ…あ
あ…あ

あ…あ

あ…あ
それ…っ
きもち、い…のっ

あ…あ



姫…っ
大丈夫ですから

あ…

ぎゅっ



やあ…っあ
そこ…っす、
られる…っ

ん…っ

へん、にっ…
なっちやう!

ぞくぞく…っしてえ
こわい…っ



ちゃんと支えていますから
もっと変になっていいんですよ

うん…っ
…支えて、て

ふああ…
そこ…らめ…っ

ここが…っいいんですね
もっと擦って
差し上げますから—っ

グリオン…っ
グリオン—っ

っ!



い…っくっ
いつちや…うっ

あ—

姫…っ
膣内…縮まってっ!

はあ…

射精ます—っ

…っ

いっしょ…いっしょにっ

っ…わかり、ました



モメノ様っ！

アレス…

お姿をお見かけしないと
思ったら—！！

さあ、お戻り下さい

まって…！



私の話…きいて

…私
三人が戻ってくるのを
待ってたとき

すごく怖かった

死んでしまっていたら
もう会えない

離れてしまったこと
凄く後悔した

—私だけが
生き残っても
意味がないの

大切な人と
一緒じゃないと
意味がない…



だから

もうあんな
後悔しない為に

必ず戻るから
私…グリオン達についていきたい—！！



お行き下さい

ただし——今おっしゃった約束は
違えませぬよう

——ありがとうございます……アレス



——貴女が一度決めたことを
変えない方だと

長い付き合いの私が
一番知っています



それを与えられるのが
自分ではなかったことが
少し残念だよ——



おや、いいんですか
行かせてしまって

モメノ様のおんなな笑顔は
久々に見たよ



何かそうさせるだけの物を
あちらで得たのだろうか

惜しむらくは

Afterword

後書きです。

後2P有るのですが、先に漫画を読まれてからこちらを読まれる方が多いのではないかと。

曖昧なラストですが、初めからあんな感じの終わりを考えていました。話をまとめて二人をくっつけるという目標点にだけは何とか到達出来たのではないかと思います。取り敢えず考えていた話全部を形に出来て良かった。定期的に挫けてたんでw

しかし見直してみますとモモメノは鬱姫というよりは、終始物凄く内気で大人しい娘という感じでしたが、どうだったんでしょうか。違和感なかったかな…。

まあ…公式は有って無いようなものではありませんが。

また本文中盤からの激甘っぷりは、自分でも「これは如何なものだろう」と躊躇ったりもしたのですが、そこら辺の恥かしい感じとかもひっくり返してお楽しみ頂けたらなーと思います (笑)

最後のページの花について補足を。あれは白いフロワロという脳内設定をお願いします。ゲーム本編で私がEDを迎えた時、世界の半分以上がフロワロに覆われているという残念な有様でして「ニアラ倒した後、残った花は枯れる？毒気が抜けて真っ白な花になる、とかだったら綺麗かもな」等と考えていたのですが、実際にEDを迎えてみたならば。

カザンに直帰w

ちょっと、花どうなった！ (笑) と。

そんな訳で考えていたパターンを自分の漫画でやってみました。

白い花に覆われた世界は、きっと綺麗なんじゃないでしょうか？

最後までお付き合い下さり有り難う御座いました。

また何かの機会にお会いできる事を祈って…

繋いだ手

発行日：2010/04/25

発行サークル：純銀星

発行者：たかしな浅妃

印刷：金沢印刷

2ndsilver@gmail.com

http://7th.x0.to/~slv/

成人向けにつき、未成年者の購読・閲覧・所持を禁じます

Epilogue

ここか





この先に待つ結末が

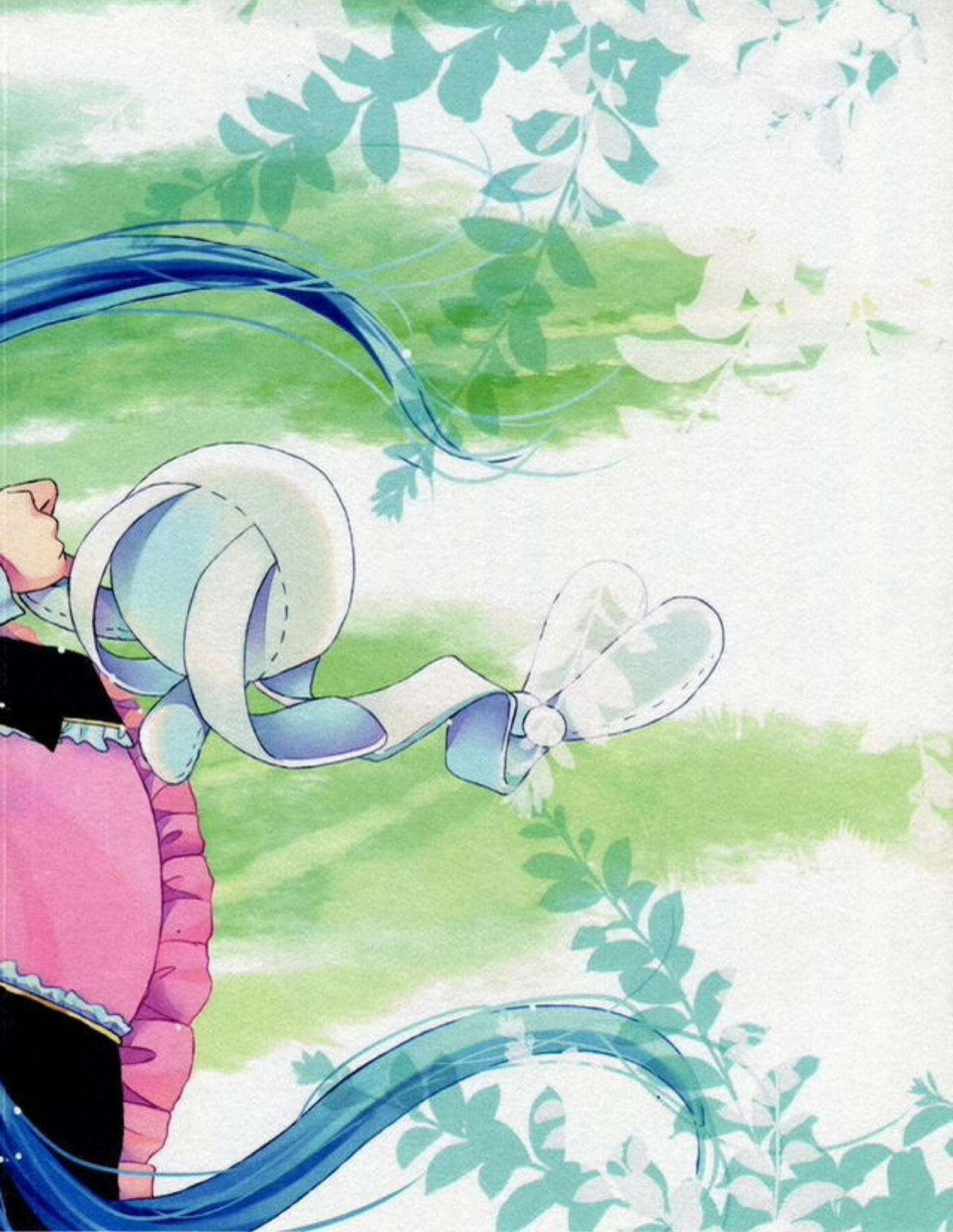
さうさ

…うん

必ず全員で戻りましょう

生きて

きっと幸せなものだと信じて――





繋いだ手

Presented By JYUNGINBOSHI/Asahi Takashina

成人向
FOR ADULT ONLY

7TH DRAGON FANBOKKS*07